

7 高齢者の総義歯作製にあたり思うこと — 歯科医師と歯科技工士の連携の重要性 —

唐澤次郎

明倫短期大学校友会（歯友会歯科技術専門学校 歯科技工士科8回生）

keywords : 高齢者, 総義歯作製, 歯科技工士, 歯科医師, 連携

はじめに

総義歯装着患者は、装着している総義歯が不具合な場合、必ず主訴・愁訴をもって来院する。歯科医師は患者の訴え・希望を十分に聴取することなく、新義歯製作の過程が進行してしまう場合が多々ある。患者は現在の義歯が具合が悪くて機能を果たせないと訴えて来院しているにもかかわらず、義歯調整や修理などはしない。

歯科技工士の我々が患者さんの模型を渡された時、「これで大丈夫か?」と悩む時も時々ある。その場合、歯科技工士のアドバイスを聞き入れて下さる歯科医師もいるが、現実に全く聞いてもらえない歯科医師も多い。

我々、歯科技工士は患者さんの口腔内を拝見する機会がなかなかないのが現状で、模型上でしか知ることができない。驚くような模型に遭遇することもあるが、いずれにしても患者さんにとって毎日の生活に使える義歯を作製し、喜んでもらいたいとの願を込めて日々、技工に取り組んでいる。車の両輪のように歯科医師と歯科技工士が互いの役割を理解しながら協力して義歯製作に関わっていくために、日頃の技工業務を通して感じていることを述べさせていただく。

患者の主訴・愁訴

患者が訴える主訴・愁訴には、次のような症状がある。このようなことがなぜ、起きてしまうのだろう。

- ・義歯の安定が悪い ・落ちる
- ・義歯が浮き上がる
- ・食べ物を噛めない
- ・義歯が当たって痛い
- ・審美性が悪い
- ・その他

結果および考察

患者の訴えに、患者は何をして欲しいのか、医療者側はしっかりと耳を傾け、受け止める必要がある。

- ・調整して欲しいのか
- ・新しい義歯を作って欲しいのか

近年の超高齢社会では、従来の理論だけでは解決できない症例が多く現れている。その解決策の一つにデンチャースペース、ニュートラルゾーンによく適合した義歯を如何に作製するかがポイントであり、歯科医院側から模型をお預かりする時点で渡された模型をよく確認することが大切であると考えられる。

まとめ

歯科技工士が患者さんを第一に考えて、喜んでもらえる義歯を作製して、遣り甲斐を感じ長く歯科技工の仕事を経営していくためには、日頃から、歯科医師の先生とのコミュニケーションを大切にし、お互いに意見交換しながら義歯作製を進めていくことが大切である。それは患者さんのためである。何らかの理由で歯が欠損し、そのままに放置して、好きな食べ物も食べられずに我慢している高齢者は多い。それらの人々に歯科医師と歯科技工士が力を合わせ、義歯を装着していただいて毎日の食事をきちんと摂取し、健康で長生きすることを歯科技工士は支援していきたい。